



メルボルン日本人学校 2010年 年間報告

6 Ellington Street, Caulfield South
VICTORIA 3126

T (03) 9528 1978
F (03) 9528 1012

melko@jsm.vic.edu.au
<http://www.jsm.vic.edu.au/index.html>

I. 校長挨拶

今年で26年目を迎えるメルボルン日本人学校の前身は、昭和47年9月に創立されたメルボルン補習校でした。昭和61年5月に現在の場所（6 Ellington Caulfield South VIC 3162）で、児童・生徒数96名でメルボルン日本人学校としてスタートしました。平成2年頃には子どもたちの人数がプレップ（幼稚園部）を含めると150名を超えることもありましたが、今年の1月よりプレップを再開し、プレップ2名、小学部26名、中学部16名、計44名の子どもたちが元気に楽しく学習を進めております。設立母体でありますメルボルン商工会議所、学校運営理事会や保護者会の皆さまをはじめとして、オーストラリア政府・ビクトリア州政府・日本国政府・海外子女教育振興財団などの多くの方々に支えられて今日を迎えるに至っております。

本校では従来から、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをもって、世界に羽ばたく人材の育成をめざした学習活動の実践と、日本の学習指導要領に基づく教育課程の編成を行い、「確かな学力」をさらに「質の高い日本の教育」へ、また、オーストラリアの地の利を生かした活動により「豊かな心」の育成に努めています。

平成21年度からは、コミュニケーション能力の向上と英語教育（ESL）に力を入れています。英語力の向上はもちろん、「全教科を通じて話し合い活動を充実させ、コミュニケーション能力を高めていこう」と教職員一同、気持ちを一つにして取り組んでいます。

その一環として、少人数の利点を生かしながら、自由に自分の意見を言える雰囲気作りと、友達の意見を聞いて自らの考えを高めていく場を常に設定する授業作りを工夫していきます。また、フルタイムで関わられるESL（第2外国語としての英語）教員を増員して「英語が使える日本人の育成」にも力を入れています。さらに、現地校との交流の回数も増やし、交流学习の充実を図っています。その結果、英語の力が飛躍的に向上しています。

少人数学級編制による、きめの細かい行き届いた心配りのできる環境で、「質の高い日本の教育」を目標にして、文部科学省より全国から選抜された、卓越した力量をもつ経験豊かな教職員が日々努力を積み重ね、教育活動に邁進しています。その結果、22年度に中学部を卒業した生徒は全て、日本各地の第一希望の高等学校に進学することができました。偏差値65以上の学校に入学できたのも、「質の高い日本の教育」を実践し、きめ細やかな個別指導を徹底した結果であると自負しております。

また、2009年度に、ヴィクトリア教育省より、「特別学校」として認可され、カリキュラムについては、オーストラリアの教育内容に合わせることなく、日本のカリキュラムに沿って授業することが認められました。ナップランの試験は、子どもたちの英語力を確かめるために行っておりますが、教えている内容が他の学校と異なりますので、結果は比較の対象にはならないものと考えております。

II. 本校の教育目標

本校は、メルボルン周辺に在住する日本人子女及び、今後日本において日本の教育を受ける予定のある者に対して、オーストラリアの現地校としての枠組みの中で、日本国憲法・教育基本法・学校教育法の基本概念をしっかりと把握し学習指導要領に準じた本校の教育計画・教育活動を実践していくものとする。

日本人としての自覚を持って国際社会を生きていくこころ豊かな子どもの育成 ～質の高い日本の教育を通して～

1, めざす子ども像

- ・ 進んで学習に取り組み、やりぬく子ども
- ・ 思いやりを持ち、助け合う子ども
- ・ からだを鍛える元気な子ども
- ・ 豊かな心を持ち、広い視野で考える子ども

2, めざす教師像

- ・ 使命感を持った教師
- ・ 子どもとともに歩む教師
- ・ 研修に努める教師

3, めざす学校像

- ・ 魅力ある楽しい学校
- ・ 信頼される学校
- ・ 日豪のかけはしとなれる学校

4, 教育目標設定理由・根拠または理由

保護者や地域の住民の方の学校に対する関心も高く、日本人学校への期待も大きい。地域に開かれた学校をめざす中、メル校デーなどの学校行事には多くの方が見学に来られる。

本校は、「現地理解教育の推進」というテーマのもと各学年で小テーマを設定して、子どもたちが自らの課題をもち、自分で解決する力・社会に目を向け生活する力を伸ばすことと共に、人としてのやさしさと忍耐力や寛容のこころを培い、国際人として世界にはばたく人材の育成をはかりたいと考え、教育目標を設定した。

〔課題〕

- ・ 地域に開かれた学校づくりの在り方を求めた教育活動の推進等
- ・ 教員の資質の更なる向上をめざした教育・研修の在り方の工夫
- ・ さまざまな体験的活動における活動場所の開拓と英語教育の推進
- ・ 少人数学級における個を大切にし、一歩すすんだわかる授業の工夫と実践
- ・ 日本の英語熱の煽りを受け、英語圏における世界的な日本人学校離れが進む中での児童・生徒数の継続的な確保をはかる
- ・ 海外において、外での運動や遊ぶ機会に恵まれない環境を踏まえ、体育・体育的活動にも力を入れ、逞しい体と情緒ゆたかなこころを育む

5, 指導の重点

①確かな学力の定着

学力には基礎的・基本的内容についての学力と問題解決的学力の両面がある。激動する社会情勢の中で、日本人として自覚をもって生きていくところ豊かな子どもの育成をめざす中で、「問題解決能力」と「自ら学び続ける力」特に重点を置いた指導を心がけたい。また、現行学習指導要領の趣旨に則り「確かな学力」の定着に全力を傾ける。

②豊かな心の育成（充実した英語教育と現地理解教育を踏まえ）

本校は地の利を生かした英語教育やESL（第2言語としての英語）を押し進める。また、英語の実践的活用能力の向上を図るために、現地校との交流学习を実施する。さらに、各校外活動においては、オーストラリアならではの文化や習慣にも触れ、豊かなところを育み、国際人として世界にはばたく人材の育成をはかる。

③情報教育の推進

情報教育は時代の求める教育といえる。

発達段階に応じて、情報の検索・収集・選択・発表・発信などの能力を高めるとともに、必要な情報の管理と活用についての知識を養う。

④地域理解教育

ヴィクトリア州、メルボルンの特徴を活かした教育を行う。

現地校との交流を積極的に行い、現地の学校や子どもたちの考え方を学ぶ。

現地校の優れている点などを学び、日本人学校に取り入れられる物については取り入れていく。

⑤コミュニケーション能力の向上

豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが大切である。その基盤となるのが、話すこと・書くこと・聞くこと・読むことであり、一人ひとりのコミュニケーション能力を向上させていくことが豊かな心を育むことに繋がっていく。

Ⅲ. 主な行事

1, 年間行事予定

別紙参照

2, 年間の主な行事内容

①始業式・入学式

4月14日には、長谷川総領事や西澤理事長などの来賓をお迎えして、2010年度のスタートに当たる始業式・入学式を行いました。42名の児童・生徒で2010年度がスタートしました。

②ジャパンフェスティバル

5月16日の日曜日。ボックスヒルの会場で行われたジャパンフェスティバルに参加し

ました。4月から一生懸命練習してきた「よさこいソーラン侍」を小学部の子どもたちが、中学部の生徒たちは「南中ソーラン」をステージ上で元気に披露しました。子どもたちの真剣さと揃った演技は、オーストラリアの方々にもメル校をアピールする大きな要素となりました。

③児童生徒総会・1年生を迎える会

5月5日の児童生徒総会や5月6日の1年生を迎える会でも、子どもたちが主体的に取り組み、自分たちで会を運営している姿が見られました。

④中学部宿泊学習

5月25日から28日にかけて中学部の15名がグレートオーシャンロード方面に宿泊学習に出かけました。グレートオーシャンロード等の美しい自然の中で、多くのアクティビティーに取り組むことができました。「自ら考え自ら動く、友達のために自分も頑張ろう。」そんな姿を見ることができました。

⑤ミュージックフェスティバル

6月15日には小学部のミュージックフェスティバルが行われました。3つのグループに分かれ、普段の音楽の学習の成果を十分に発揮し、見学していた保護者の方々も大変満足した様子でした。

⑥中学部交流学习

6月17日には、中学部がカンタベリーガールズスクールとの交流学习を行いました。英語で日本の文化を紹介したりゲームの説明をしたりしました。昼食時には、ごく自然に英語で会話する姿があちこちで見られました。

⑦マラソン記録会

7月6日には、プリンセスパークでマラソン記録会が行われました。休み時間や体育の時間に積み上げてきた各自の記録を更新する素晴らしい記録がたくさん生まれたマラソン記録会になりました。

⑧交流学习2

8月18日と20日に、交流校であるグラモーガン校に行きました。日本語の勉強をしているグラモーガン校の子どもたちと、英語の勉強をしているメル校の子どもたちが、お互いの国の言葉を上手に使いながら会話をしたりゲームをしたりしている姿は大変微笑ましいものがありました。

⑨メル校デー

9月12日の日曜日。メルボルン日本人学校にとって大きな行事の一つであるメル校デーが開催されました。午前中の「ワトルタイム」は、中学部はグループごとに英語で旅行計画をプレゼンテーションし、どこに旅行に行きたいかを投票して貰っていました。小学部は「言語」「柔道」「着物」の3グループに分かれて日本の素晴らしさをアピールしていました。午後は、「チャレラン」に取り組みました。「バザー」は大変好評で、多目的室から溢れんばかりの人でごった返していました。

⑩新多目的ホール落成式

オーストラリア政府より補助金を頂き、多目的室の上に新多目的ホールを増設しました。9月17日にマイケル・ダンビー議員をお迎えして落成式を行いました。本校の理事長を初めとして多くの方に参加していただき、盛大な会を催すことができました。

⑪運動会

10月17日。時折雨が降る中、メルボルン日本人学校の第25回運動会が開催されました。子どもたちは、競技や演技に自分の持っている力を存分に発揮していました。小学部の「牛深ハイヤ」は、1年生から6年生までが楽しく身体を動かし、一体となって美しく演じていました。中学部の「南中ソーラン」は、見るたびに力強く逞しくなっているように感じました。そして、「美 ヨンスケ I AM ツアー インメル校Ⅱ」では、楽しい表現の中に日頃の体育で培った、技能や表現力が随所に盛り込まれていました。

⑫小学部遠足

11月26日には、小学部の1～3年生がチェリーピッキングにバスに乗って出かけました。たくさんのチェリーを取ったりその場で食べたりして、満足して帰ってきました。1年生から3年生がさらに仲良くなった遠足でした。

⑬小学部宿泊学習

12月1日から小学部の4・5・6年生が、フィリッパ島で2泊3日の宿泊学習を行いました。水泳・フライングホックス・いかだ作り・ナイトウォーキングなどのアクティビティーが体験でき、子どもたちにとって大変有意義な充実した時間を過ごすことができました。

⑭プレップ再開

1月10日より7年ぶりにプレップクラスを再開しました。男の子3名、女の子2名の計5名でスタートしました。それに合わせて、渡邊あおい教諭を採用しました。5人の子ども達は緊張しながらも笑顔で学校に通い出しました。

⑮オープンクラス

1月10日からのオープンクラスには30名の子どもたちが、メル校の子どもたちと一緒に学習に取り組みました。7日間という短い期間でしたが、大変充実した時を過ごせたことと思います。

⑯水泳学習

1月20日、21日、25日の3日間、WAVES LEISURE CENTRE において、水泳学習が行われました。ホップ・ステップ・ジャンプ・チャレンジの4グループで学習に取り組みましたが、先生方の指示をしっかりと聞き、着実にこの3日間で泳力が伸びたように思いました。

⑰遠足・社会科見学

1月27日、28日、31日の3日間は、小学部6年生、プレップ・小学部1・2年生、小学部3年生の遠足や社会科見学が行われました。6年生はヴィクトリア州議事堂を見学し、オーストラリアの政治や日本との関係を改めて考える良い機会となりました。プレップ・1・2年生のメルボルンズーの見学では、友達と仲良く多くの動物を見学し思い出に残る楽しい1日となりました。3年生の消防署見学は、社会科の時間に学習したことをしっかりと確認することができたようでした。

⑱授業参観・懇談会・保護者全体会

2月5日の土曜日に、授業参観・懇談会・保護者全体会がありました。大変多くの保護者の皆様にご来校いただきました。小学部は日本語の音声言語に重点を置いた学年ごとの発表や全体発表がありました。中学部の英語のスピーチでは、どの子も自信を持って堂々と発表していました。その後の保護者全体会で、アンケートの結果と来年度の事についてお話をさせて頂きました。

⑭卒業証書授与式

3月10日に第25回の卒業証書授与式が行われました。小学部6名、中学部5名の皆さんに、一人ひとり卒業証書を手渡しました。メルボルン日本人学校で培った友情はずっと続くものと確信しました。毛利衛さんの夢を諦めない様子を紹介し、今後平坦な道ばかりではないが自分で乗り切って夢を実現して欲しいという話をして送り出しました。

IV. 教職員リスト

職種別	氏名	所属	性別	主任・担任・担当教科	所属	着任年次
校長	丸本 互	小	男		神奈川県	平成21年
主幹教諭	高橋 俊昭	小	男	主幹教諭・小1担任	滋賀県	平成20年
教諭	渡會 寛之	中高	男	教務主任・小5担任・⑩国語	秋田県	平成20年
教諭	三澤 晴恵	小中高	女	小2担任・体育主任	千葉県	平成20年
教諭	上中 了仁	小中高	男	小3担任・行事主任・音楽担当	奈良県	平成20年
教諭	猪原 光代	幼小中高	男	小学部主 小4担任	兵庫県	平成21年
教諭	小室 吉昭	小中高	女	小6担任・情報主任・3456体育	大阪府	平成20年
教諭	田原 正修	中高	男	中1・2担任 346社会・⑩社会	佐賀県	平成21年
教諭	山岸 正一	小中高	男	中3担任・生徒指導主任・⑩数学⑩6算数	群馬県	平成20年
教諭	現地採用 藤田 厚子	英語	女	英語科主任・⑩56英語・⑩123英語 FAD		平成19年
教諭	現地採用 ヘンリエット ハート	ESL	女	⑩⑩ ESL FAD		平成14年
教諭	現地採用 ジェマ フィッシャー	ESL	女	⑩⑩ ESL FAD		平成21年
教諭	現地採用 渡邊 あおい		女	プレップ		平成23年
事務主任	現地採用 葛西 秀子		女			昭和61年
事務	現地採用 松尾 佳州子		女			平成21年
用務	現地採用 ドナルド リム		男			平成21年

V. 職員の出勤率

1, 教職員数

16名 正規教職員数 14名 非常勤 2名 (1名週5日、1名週2日)
(1名は1月10日採用)

2, 出勤日数

205日

3, 病欠延べ日数

12日 (怪我入院等)

4, 出勤率

$1 - [12日 \div (205日 \times 14名 + 205日 \times 2 / 5 \times 1名 + 44日 \times 1名)]$
= 0.997 99.7%

VI. 教員の研修

1, 研修日数

20日

2, 研修実施日

6/3, 6/17, 6/24, 7/1, 7/8, 8/12, 8/19, 8/26
9/2, 9/9, 9/16, 10/7, 10/14, 10/28, 11/4
11/18, 12/2, 12/20, 1/20, 2/3

3, 研修内容

①公開授業による校内研修

- ・校長を指導助言者として、それぞれの担当する学年・教科の授業を公開し、その進め方や質問の仕方など細かな点に及ぶ研究協議を行い、より質の高い日本の教育を実現する研修を実施した。
- ・全学年において、公開授業を実施して学習指導要領に基づく指導のあり方について理解を深めることができた。

②校外研修

- ・全派遣教員でラトループ大学を訪問し、オーストラリアの大学の学内の様子や授業について参観して、教員としての資質向上に役立てた。
- ・日本の教育と比較するなどして、教育内容について意識を高め、日々の教育活動につなげることができた。
- ・英語・ESL 教員は、児童・生徒の書く力 (writing) を伸ばすための外部機関の研修に8日間でかけ、指導のための資料やワークシートを得ることができた。その資料やワークシートを授業に活用している。

4, 研修費用

- ・平成21年度の職員研修費用は A\$1,100 であった。

VII. 児童の出席率

	P	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	合計	授業日数	延べ日数	欠席人数
4月		3	3	5	8	5	4	4	8	3	43	12	516	6
5月		3	3	5	8	5	4	4	8	3	43	20	860	5
6月		3	3	5	8	5	4	4	8	3	43	21	903	7
7月		3	3	5	8	5	4	4	8	4	44	17	748	27
8月		3	4	5	7	6	4	4	7	4	44	17	748	42
9月		3	4	5	6	6	4	4	6	4	42	17	714	40
10月		3	4	7	6	7	4	5	6	4	46	21	966	42
11月		3	4	6	6	7	5	5	6	4	46	21	966	40
12月		3	4	6	6	7	5	5	6	4	46	13	598	12
1月	5	3	4	6	6	8	5	5	7	5	54	15	810	35
2月	5	3	4	6	6	8	6	6	7	5	56	20	1120	43
3月	4	3	4	6	6	8	6	6	7	5	55	9	495	12
												203	9441	311

出席率は $1 - (311 \div 9441) = 0.967$ 96.7%

VIII. ナップランの結果

1, 3年、5年、7年、9年生におけるNAPLANテストの平均値

(Reading, Writing, Spelling grammar&punctuation and numeracy) について

①試験について

実施学年・・・3年生・5年生・7年生・9年生

実施回数・・・年1回 5月中旬ごろ実施

試験の問題がすべて、英語で書かれており、しかもオーストラリアのカリキュラムに基づいたテスト内容であり、日本の文部科学省による学習指導要領に基づいた教育内容とは、相違している。そのため、このテストの結果で、児童・生徒の学力を結果づけることはできない。ただ、その結果の分析からある程度の傾向を読み取ることができる。

②試験結果について

英語科（現地校では、国語に当たる教科、本校では、ESL・・・English As A Second Language）reading, writing, spelling, grammar&punctuationについては、本校の結果は、現地校の平均よりも下回っている。ただし、英語が母国語でなく第2言語として学習していることを考慮に入れるとレベルはかなり高い。

また、日本の基準と比較した場合、ESLの授業そして、G5（5年生）から行われる英語の授業の成果による英検の合格率にも裏付けられているとおり、トップクラスの英語指導実績であるといえる。

英語の4種のテスト項目のうち、現地校の生徒に比較して、spellingの成績の平均値が特に下回っている。また、得点が10パーセントに満たない生徒の割合もこの項目が一番多かった。しかし、その中で、grammar&punctuationとreadingの成績が言語に関する他の項目に比較して割合よい。これは、おそらくESLの授業と英語の授業が効果的に実践され、成果を上げているからと考えられる。

数の計算問題（numeracy）については、小学部では、平均近くの成績である。これは、問題文が英語文で、問いの意味の理解に誤解があったことが起因していると思われる。中学部では、州平均よりも遙かに上位の結果が出ている。さらに大半の生徒が75パーセント以上得点というランクに位置している。

③過去数年の平均値の変化について

過去数年の平均値の変化については、児童、生徒の入れ替わりが激しい本校の特色柄データ分析が難しい。しかし、ここ数年のNAPLANテストが比較可能な生徒、児童だけを取り上げて変化をみると本校での英語指導の積み重ねとともに、NAPLANテストのガイダンスをESLの授業で行ったことと、個別指導を受けたことにより成績の向上がみられている。

X. 学校評価

1. 保護者アンケート結果

①学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。

よく当てはまる	どちらとも言えない	全く当てはまらない
5	4	3
2	1	1
6	10	3
2		

②メル校ならではの特色ある教育活動を行っている。

5	4	3	2	1
10	7	2	1	1

③教師は、子どもの能力や努力をよく見ている。

5	4	3	2	1
6	10	2	2	

④教師は、子どもとよく話をしてくれ、よく理解してくれている。

5	4	3	2	1
7	9	3	1	1

⑤教師は、教育活動の内容等を、懇談や通信等でよく伝えてくれる。

5	4	3	2	1
8	7	5	1	

⑥子どもは、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。

5	4	3	2	1
8	10	2	1	

⑦子どもは、自分の学級が楽しく、友だちとも仲良くやっているとやっていると言っている。

5	4	3	2	1
13	6	1	1	

⑧子どもは、学校へ行くのが楽しいと言っている。

5	4	3	2	1
14	5	2		

⑨学校に行ってみると、雰囲気がよく、子どもたちも生き生きしているように感じる。

5	4	3	2	1
11	7	3		

⑩学校全体が、親の意見にもよく耳を傾け、相談しやすい雰囲気である。

5	4	3	2	1
9	6	5	1	

それぞれの項目の評価平均は、下記の通りである。

(1) 児童生徒の学校に対する満足度 (3項目) (5点満点中4.4点)

(2) 保護者の学校に対する満足度 (7項目) (5点満点中4.1点)

XI. 会計報告

1. 別紙様式にて、報告。